

県内における花桃の栽培について

参考資料

■ 本県花桃生産の特徴

・川崎では江戸時代中期から栽培されており、明治の末に促成用の室(むろ)が開発されたことなどを契機に馬絹地区で栽培が盛んになりました。現在でも馬絹が生産の中心となっています。

・花桃を3月のひな祭りに合わせて花を咲かせて出荷するため、蕾が小さく硬いうちに枝を切り出して枝折り(しおり)作業を行い、枝物特有の出荷姿に整えた後、1週間程度室(むろ)(暖かく湿度のある部屋)に入れて生育を進め、3分咲き程度になったところで出荷します。(=促成栽培)



枝折りの出荷姿の「馬絹の花桃」

・こうした技術は全国的にも評価されており、令和6年1月下旬に開催された「第72回 関東東海花の展覧会」等においては、最高位の農林水産大臣賞を受賞しています。

(参考)

第71回、第72回 関東東海花の展覧会 枝物部門
農林水産大臣賞 受賞 吉田 貴次 氏

